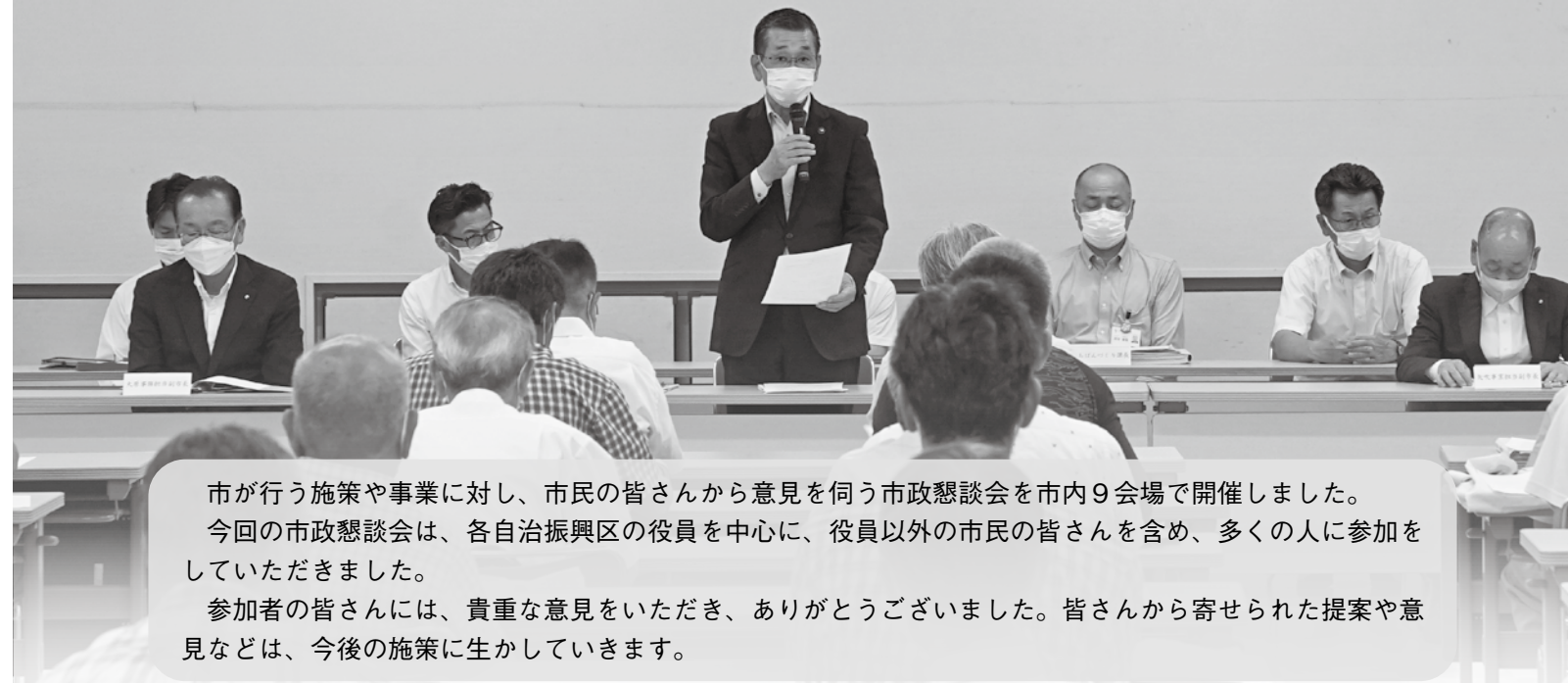


令和6年度 市政懇談会

行政管理課広報統計係 ☎0824-73-1159



市が行う施策や事業に対し、市民の皆さんから意見を伺う市政懇談会を市内9会場で開催しました。
今回の市政懇談会は、各自治振興区の役員を中心に、役員以外の市民の皆さんを含め、多くの人に参加をしていただきました。
参加者の皆さんには、貴重な意見をいただき、ありがとうございました。皆さんから寄せられた提案や意見などは、今後の施策に生かしていきます。

懇談のテーマ・概要

今回の市政懇談会は、市が設定した「安心して住み続けられるまちづくりに向けて」庄原いちばんづくりの取り組み」をテーマに行いました。
懇談会では、庄原いちばんづくりの概要や、これまでの取り組み実績・成果、本市の人口動態、そしてテーマに掲げている、安心して住み続けられるまちづくりに向けた市の考えを説明し、その後、意見交換を行いました。
また意見交換終了後には、JR芸備線を取り巻く現状や、JR芸備線・木次線の利用状況、鉄道ネットワークの重要性について、市民の皆さんへ情報提供を行いました。

参加者からの質問・意見

市政懇談会で寄せられた質問・意見を抜粋してお知らせします。

Q 有害鳥獣対策として、デジタル技術を活用することだが、全国的にどのような事例があるのか。

A 箱わななどにセンサーを取り付け、イノシシなどの捕獲情報をスマートフォンなどに通知するものがあります。

また、ドローンを活用して、イノシシを見つけたら、追い出して捕獲したりする仕組みなどもあります。
本市でも、こうしたデジタル技術の

の情報を収集し、活用の検討を行い、有害鳥獣の対策に取り組んでまいりたいと考えています。

Q 庄原産材の活用推進は、大変良い事業であるが、山林の整備や人材育成などに森林環境贈与税などをどのように活用されるのか。

A 豊富な森林資源を守り、育て、活用する「儲かる循環型林業」の実現のため、製材工場での庄原産材の利用、植栽から保育までの山主負担の大幅な軽減、林業学校への就学支援などに活用することとしています。

Q 庄原産米のブランドづくりについて、具体的にどのような取り組みをしているのか。

A 特色ある庄原産ブランド米の生産を進めるために組織された協議会の活動を支援するとともに、広告宣伝や販売促進などに協力して取り組むことで、ブランドづくりを推進しています。

Q コンパクト・プラス・ネットワークはどのようなものなのか。

A 国が2050年を見据えた国土づくりの理念や考え方を示したもので、市民の利便性の向上を目的に、医療・福祉・商業などの生活サービス施設を集約し、公共交通などで、各拠点や施設をつなぐまちづくりの考え方はです。

最後に

市政懇談会の最後に、木山耕三市長は次のとおりまとめました。

今回の市政懇談会では、昨年度に引き続き、本市のまちづくりや人口減少の問題について、懇談をさせていただきました。人口減少が進む中、本市では、若い世代の転出率が高く、地域や企業などでは、担い手確保に苦慮されている現状があります。そうした中、本年度、庄原いちばんづくり留学を開始し、若者を直接呼び込む事業を実施しています。今後もこの取り組みを充実していきます。

また、今回情報提供をさせていただきましたJR芸備線については、大変危機感を持っています。

本市には、4つの高校があり、多くの学生がJR芸備線を利用してしまふと、高校生の通学の手段を奪ってしまうこととなります。そうなること市の外の高校を選ぶ子どもたちも増えると思いますし、その影響により、市内の学校の存続や事業所の働き手の確保、地域の活力にも大きな損失を与えることにつながると思っています。

そういったことにならないように、国や県にしっかりと訴え、JR芸備線を守っていきます。市民の皆さんにも、しっかりとJR芸備線に乗りしていただき、一緒に利用促進ができればと思いますので、ご協力をお願いします。

Q コンパクト・プラス・ネットワークには、「各拠点に容易にアクセスできるまちづくり」と書いてある。10年後のことを今から考えなければいけないといわれたが、他地域へのアクセスは本当に保障できるのか。

A 持続可能で、効率的な地域公共交通を実現していくために、令和3年に地域公共交通計画を策定しています。

また各自治振興区や地域交通の関係者と、地域別の交通課題について意見を聞き、地域ごとの実施計画も策定しています。今後も将来に渡って、持続可能な地域公共交通を実現していくために、地域や関係者と協力し、取り組んでいきます。

Q 三次市では、JR芸備線について高校生の意見を聴取する機会をつくったと報道されていたが、庄原市でも実施してはどうか。

A JR芸備線を利用しての高校生などの意見を参考に、対応策を検討したいと考えており、本市でも、実施をする予定です。

Q 公営住宅などが老朽化している。住宅には高齢者の一人暮らしも多く、近年の自然災害にも不安を感じている。住宅の改修などの計画はあるのか。

A 市は、公営住宅等長寿命化計画を策定し、老朽化した住宅の建



Q 庄原市は他県と接する地域も多く、災害が発生した際は、他県への避難が安全な場合もあると考え。市域を超えた避難に対する他市、他県との調整はどうなっているのか。

A 県内各市町は、協定を締結しており、相互支援を行うこととしています。他県についても県を通じて調整をしており、協力体制をとることとしています。

Q 県立広島大学の学生が、無料の塾や学生独自の大学説明会など、特色ある活動をしている。市は、学生に寄り添って支援をしてあげてほしい。

A コロナ禍により、県立広島大学との関係が困難となっていました。したが、本年度から連携を強化するよう取り組みを始めています。定期的に学生と意見交換を重ねており、学生が活躍できる支援の検討を進めていきたいと考えています。

Q 子どもたちと多世代の集いの場の整備とあるが、どのような計画なのか。

A 上野総合公園内に、新たな遊具や日陰で休むことができる施設を整備する予定です。周辺には、ラ・フォーレ庄原やゆめさくらもあるのですが、そうした施設との相乗効果を発揮できるように計画を進めています。

Q 地域では、子どもの郷土愛を醸成するため、さまざまな取り組みを実施している。郷土愛を育てることと、定住やUターンにつながることを考えるが、教育委員会の考えはどうか。

A 各地域で特色のある活動をされていることに感謝しています。また各学校では、地域の協力を得て、総合的な学習の時間などに、郷土愛を育む取り組みを実施しています。教育委員会としては、これらの活動を通じて、その学びや体験が将来の原動力となり、故郷思いの心を育み、故郷に帰ってくるにつなげていくものと考えています。